



更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動を行った。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



『ふるさと 北から南から 1 北海道地方』

1969(昭和44)年。6月にシベリアの旅に出かけ、8月には編集した『千歳市史』に中傷記事を記載したとして名誉毀損で告訴され、11月には盟友・伊藤整の告別式に参列するなど、更科にとつて慌ただしい1年でした。そんな年の暮れに『ふるさと 北から南から 1 北海道地方』が、さ・えら書房から刊行されています。

『日本書記』に書かれている北海道のことから、和人が開拓に入り込む前のアイヌの人々の暮らし、和人の開拓のこと、草花や動物・地理などの自然のこと、地域の産業や祭り、地名の由来など、北海道はもとより、道外の小学校中・高学年の児童が理解できるように工夫された内容です。

「たしかに五十年ほどまえの北海道は、ふぶきになると家の中に雪がふきこみ、ねている上に十センチもの雪がつもつて、その上をねずみが走った足あとなどもありません」と、更科自身が体験したであろう明治開拓のころのことや、和人とアイヌの人たちの考え方の違いを「南のあたたかい地方からきた日本人と、寒い地方にながらいだ生活していたアイヌの人たち

との、もの考えかたもちがっています。あたたかい国の日本人は水がおれば水になると思いますが、寒い土地のアイヌの人たちは、水がとけると水になるのだと考えていました」という文で表現し、開拓民が雪を溶かして飲み水を作っている写真を文中の挿絵で紹介しています。

この年の前後で、成人旅行者向けに近畿日本ツーリストが発行していた雑誌「あるく・みる・きく」で北海道の魅力を紹介するなど、本稿第112回で紹介した著述も含め、北海道を、ふるさとを愛する更科のこだわりが表現されています。この本も重版増刷されて、1979(昭和54)年で第9刷となる人気の本でした。『更科源蔵書誌』小野寺克己(編)から

ちなみに『千歳市史』の名誉毀損事件は、この年の11月に千歳警察署の事情聴取を受けますが、翌年、不起訴処分となりました。しかし、北海道のことをよく知り、市井の人々の視線で北海道を文章で語り『斜里町史』『弟子屈町史』など多くの市町村史を執筆してきた更科は、これ以降、北海道の市町村史を手がけることはありませんでした。



図書館だより

中央2丁目4番1号
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

☆絵本作家・あべ弘士さん講演会&ワークショップ

どろどろを語るうー描こう！
地球はどろどろでいつばいだ
9月13日(土)に社会福祉老人センターで開催します。詳しくは13ページをご覧ください。

☆特集展示『おとなにも絵本を！』

大人になってから絵本を開いてみる。子どもの時とは違った感動を得る瞬間があります。経験を重ねたからこそ、絵や言葉、行間から漂う何かに心を強く動かされるのではないのでしょうか。絵本なんて...と思わず、これを機に、まずは1冊、絵本の世界に触れてみませんか？

▼期間/9月2日(火)～9月30日(火)
▼場所/特集展示コーナー
▼今月の休館日
1日(月)・8日(月)・15日(月)(敬老の日)・22日(月)・23日(火)(秋分の日)・29日(月)

新刊案内

- 「ポケットに物語を入れて」 角田 光代/著
 - 「叱られる力・聞く力2」 阿川佐和子/著
 - 「いい感じの石ころを拾いに」 宮田 珠己/著
 - 「1日3杯のコーヒーが人を健康にする！」 安中 千絵/著
 - 「伊礼智の『小さな家』70のレシピ」 伊礼 智/著
 - 「みんなのおうちカレー」 柴田書店/編
 - 「夢と希望の三陸鉄道・全線運行再会記念写真集」 中井 精也/撮影
 - 「遺譜 浅見光彦最後の事件 上・下」 内田 康夫/著
 - 「銀翼のイカロス」 池井戸 潤/著
 - 「のっぺらぼうのおじさん」 そうま こうへい/著
- たくさんのお楽しみが待っています！

てがみぼうやのゆくところ

加藤 晶子/作
「おばあちゃんのいえにとどきますように」男の子がおばあちゃんへあてた手紙。「まかせておいて！」とはりきって出発した『てがみぼうや』あれ？ちょっとだけ寄り道のはずが...ほっこりと、あたたかい気持ちになる絵本です。

おすすめの最新刊

EMC通信

～川湯の森から～

今月は、町内一番長い登山道である摩周岳登山道を紹介いたします。摩周岳はアイヌ語で「カムイヌプリ」(神の山)とも呼ばれ、アイヌの人々の崇拜を集めてきた山です。約1千年前に噴火してできた爆裂火口の一角である標高857mが頂上となり、

暑過ぎず、寒過ぎず、虫の多くないこの時期は...

どが大いに発生しますが、秋に近づくと快適に歩けるのが摩周岳の登山道です。片道7.2kmの登山道の入り口は、摩周第1展望台レストハウス脇にあります。摩周カルデラの外輪山に沿って道が伸びているため、登りは比較的多くないですが、最後の数百mは急な登りが続きます。自信のない方は、4.2km地点にある風衝平原で折り返すのもオススメです。頂上からは、普段とは違う摩周湖や根釧台地、斜里岳、阿寒の山々も望むことができます。昨年、今年と環境省が登山道を整備。道を覆うササも、町内の有志が集まり年2回刈り取って、歩きやすくなっています。体力に自信のある方は、気候が涼しくなってくるこの季節、ぜひ登りに行ってみたいいかがでしょうか。

スタッフ手作り 散策路・登山道 セルフガイドマップ!

阿寒国立公園川湯地域の散策路・登山道のセルフガイドマップを、スタッフが手作りしました。館内で配布しているほか、当館ホームページからもダウンロードできるようになっています。マップを手に取り、最新の情報をEMCスタッフに聞いてから出かけると、より楽しく自然の中を歩くことができます。

- ▶つつじヶ原自然探勝路▶アカエゾマツの森▶青葉トンネル▶和琴半島自然探勝路▶ポンポン山▶藻琴山登山道▶ベケレ山登山道▶摩周岳・西別岳登山道



川湯エコミュージアムセンター(EMC) ☎483-4100
URL http://www6.marimo.or.jp/k_emc/ 9月は8:00～17:00開館(無休)